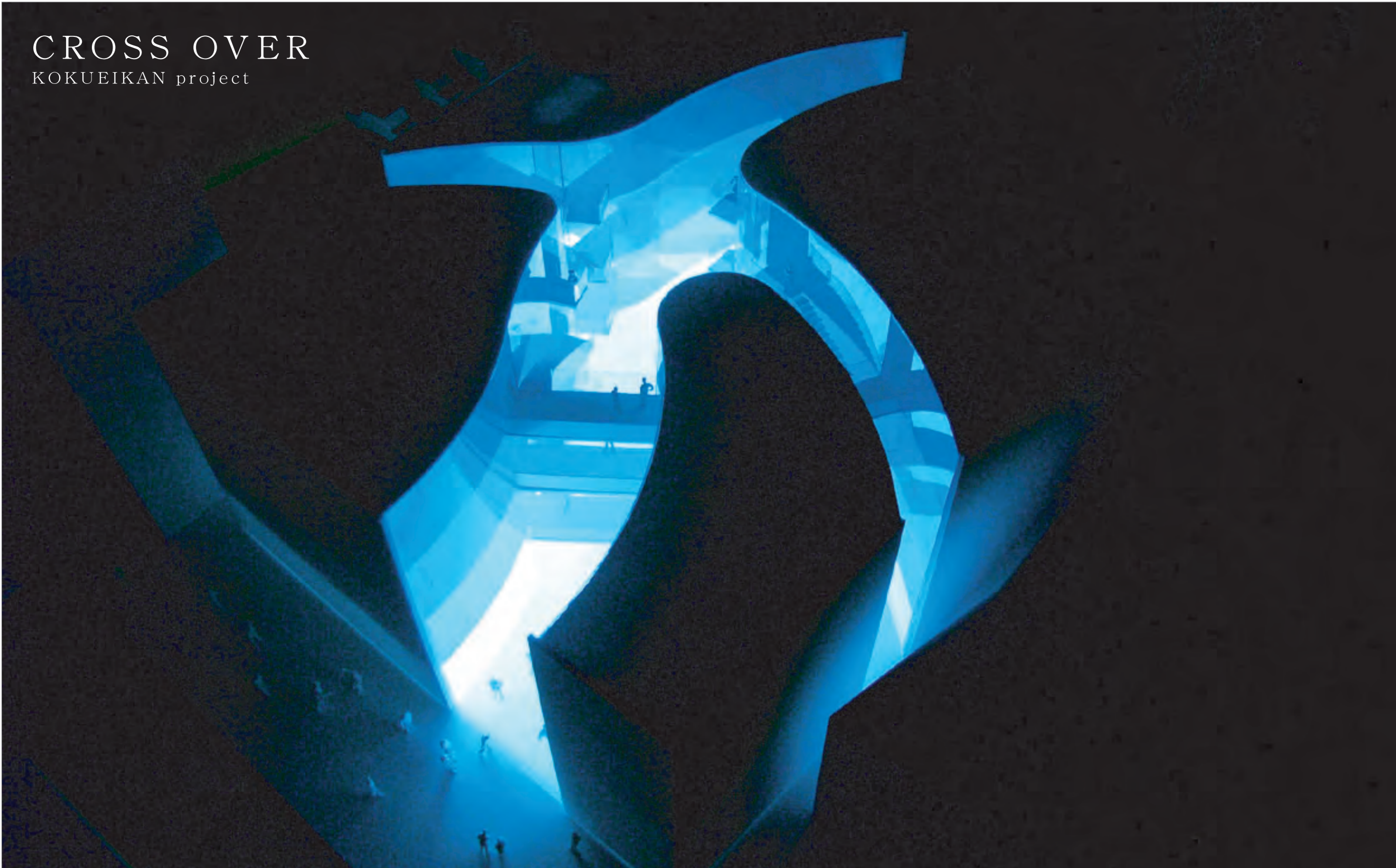


CROSS OVER

KOKUEIKAN project



CROSS OVER ~交差×創造~

戦後、沖縄の復興の象徴とされ『奇跡の1マイル』と呼ばれた国際通り。その通りの中心に位置し、人々の文化の発信地、娯楽の中心として長年親しまれてきた国映館。戦後半世紀を超え、復興という言葉さえも色褪せてきた今日、沖縄は那覇の中心だけでなく、那覇郊外、近接都市も賑わいを見せてきた。反面、国際通りは観光客の人集りはふえるものの、地元の人々の足は遠のいていく。今の国際通りの華やかさは、既に観光地特有の見せ物の張りぼてになってしまった。そして、国映館は静かにその幕を下ろした…

今回のKOKUEIKAN PROJECTを通して、地元の人々の足をもう一度国際通りに向かわせ、観光に訪れる人々との交流の場として、国際通りの更なる活性化につなげたい。そして、その中心としてKOKUEIKANを復活させたい。

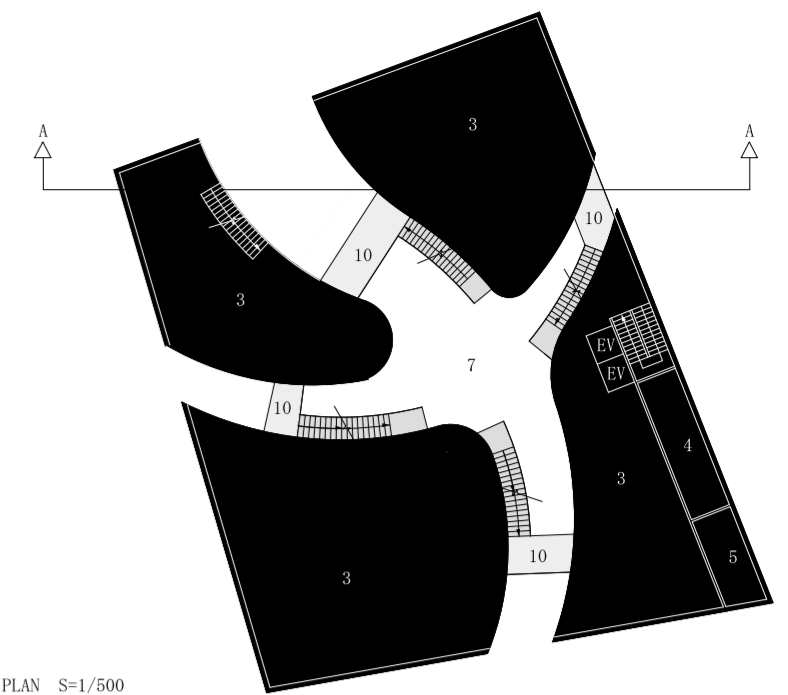
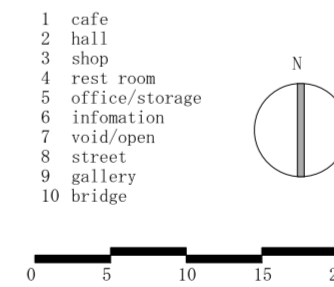
敷地を最大限利用できるような六面体のボリュームをつくり、それを二本の交差する曲線で四つのボリュームに切り分け、四つの棟と二本の通りをつくる。この交差する通りの隙間は、人々の交差を象徴し出会いの場を創りだす。そして、向かい合う四つの棟は、それぞれがそれぞれの賑わいを映し出し、垣間みることができる。それは視線の交差となり、人々の交流を生み出していく。

国際通りからのアプローチは、通りに面する二棟の隙間から入っていく。それは、近年賑わいを取り戻してきた浮島通りやパラダイス通りといった国際通りの裏通りや、今でも地元の人々に愛されている平和通りや公設市場のような路地裏をイメージさせている。通りに完全に開くのではなく、隙間から覗く賑わいが流れる人々の足を止め、路地へと向かわせる。その先で交差する広場から広がる人々の声、視線、動きはそれは路地のもつ小宇宙である。そして、その小宇宙は隙間から国際通りへと広がり、通りの賑わいへとつながっていく。

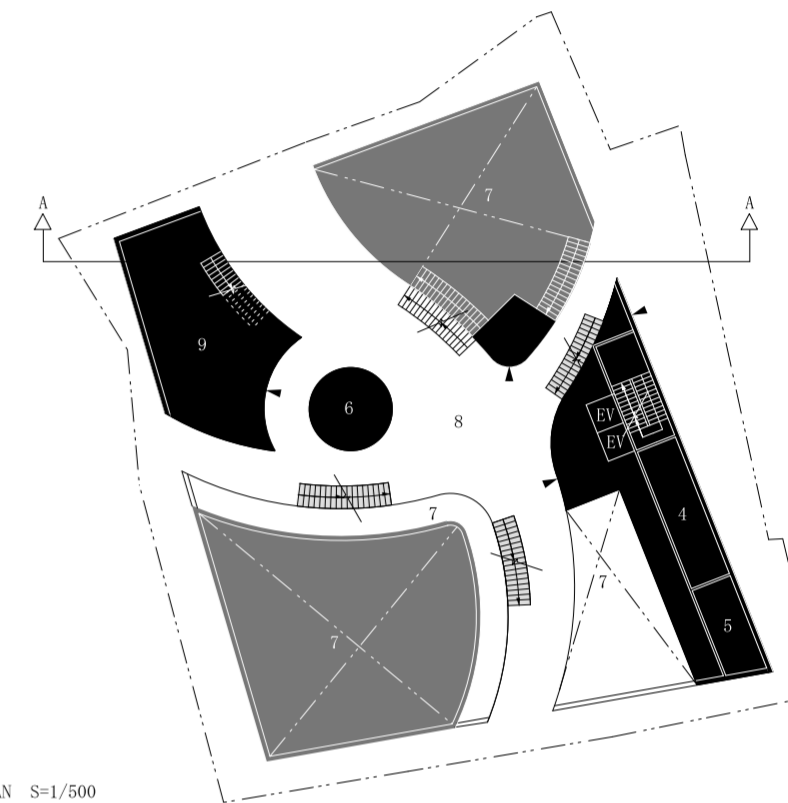
様々な文化を取り入れ成長してきた沖縄文化。この小宇宙での人々の交差、文化の交差、世代の交差が新しい国際通り、新しい沖縄文化を創造していくだろう。KOKUEIKANはその象徴として再び生まれ変わる。

DETA

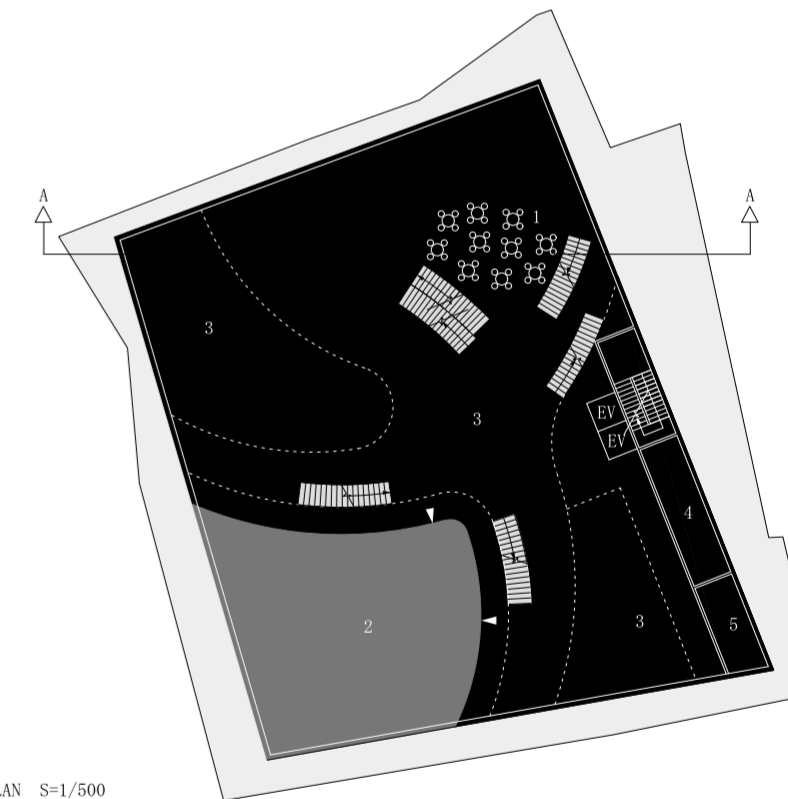
敷地面積	: 1,680.87㎡
建築面積	: 1,238.21㎡ (建蔽率73.66%)
B1F床面積	: 1,238.21㎡ (小ホール: 229㎡、テナント: 873㎡)
1F床面積	: 342.76㎡ (テナント: 132㎡)
2F床面積	: 870.20㎡ (テナント: 709㎡)
3F床面積	: 967.05㎡ (テナント: 805㎡)
4F床面積	: 967.05㎡ (テナント: 805㎡)
延床面積	: 4,385.27㎡ (テナント: 3,315㎡) (容積率380.30%)
階高	: 4.000m
最高高さ	: 16.000m



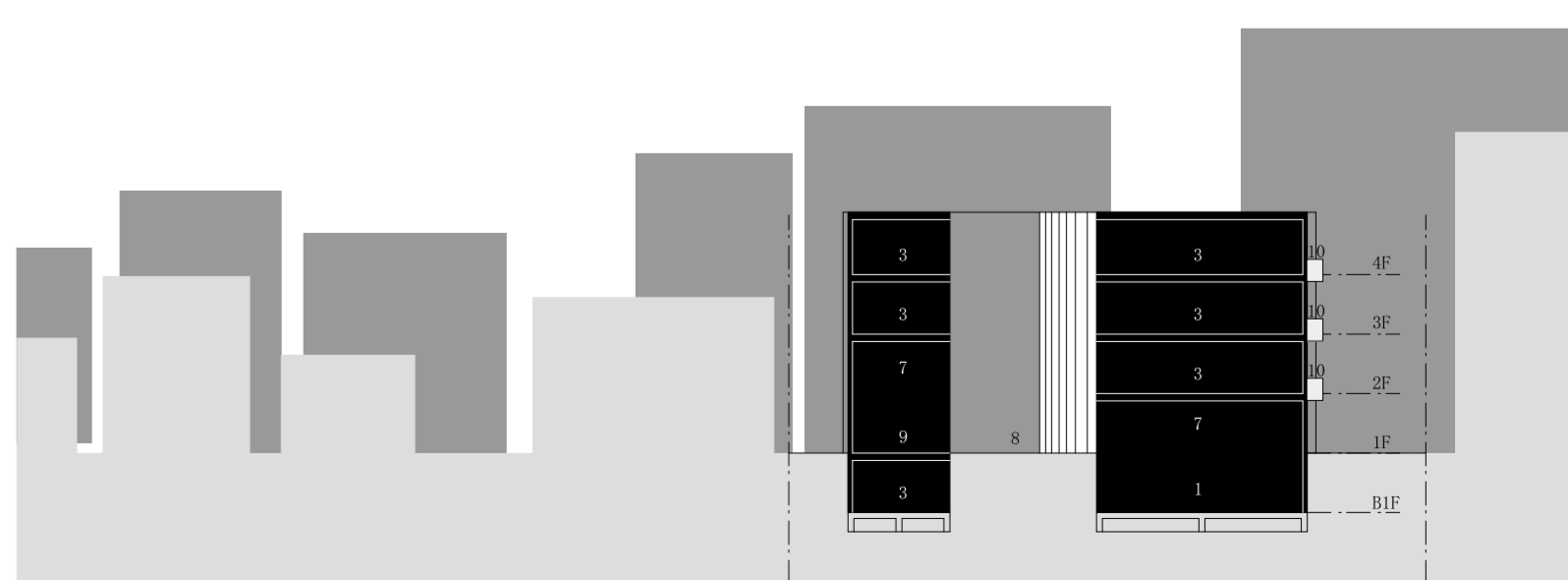
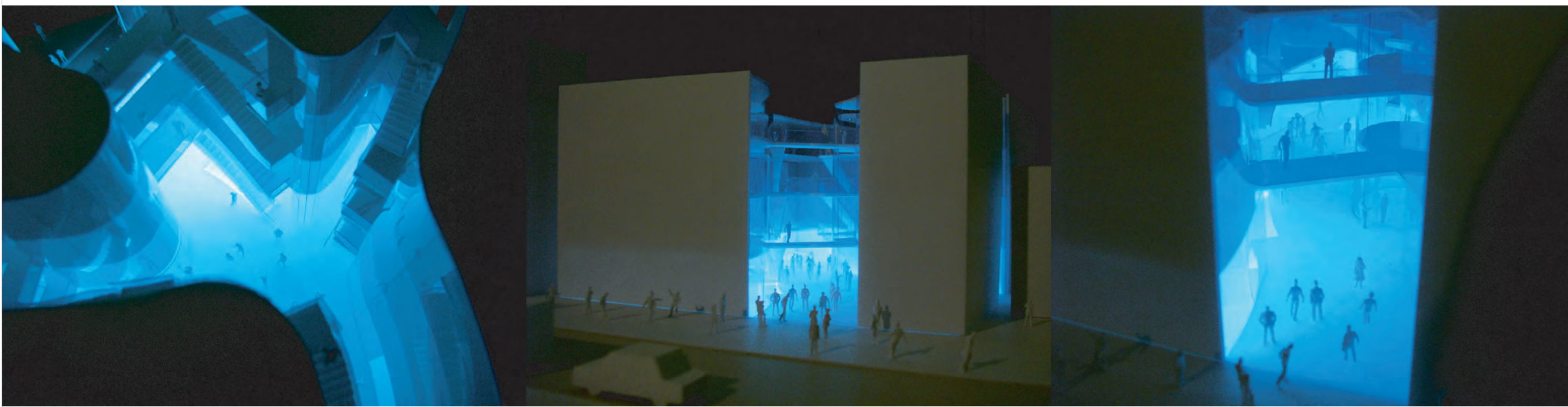
2~4F PLAN S=1/500



1F PLAN S=1/500



B1F PLAN S=1/500



A-A SECTION S=1/500